

元万博少年の現万博訪問記 ～やはり万博は心躍る！～

弁護士知財ネット理事

弁護士・ニューヨーク州弁護士 平野 恵稔¹

1 はじめにー 1970年万博に思いを寄せて

本連載の趣旨は「各人各様に気ままにビジュアルに」レポートすること²なので、私は、7月16日と28日に行った万博について、極めて個人的な視点で訪問記を書きたいと思います。

主催者によると16日は来場者数125,357人、28日は138,087人で、28日は夏休みに入って来場者数が増え、小学生らも大勢来ていました。28日は当日予約もほとんど取れず、この人数の差は大きいのだと思いますが、小学生が会場にいると自分の昔のことを思い出し、うれしくなります。

私は1970年（昭和45年）の大阪万博のとき小学校1年生でした。万博にはとても大きな影響を受けた「20世紀少年」³であり万博には深い思い入れがあります。

私の先の大阪万博の思い出といえば、まずは心躍る科学技術でした。今でいうならサイエンスでしょうが万博には科学技術が似合うと思います。万博開催のために設けられた大阪梅田の動く歩道で小学生の私が隣の歩道を歩く大人をぐいぐいと追い越し、科学の力を実感しました。1873年（明治6年）のウィーン万博から、発明の国際的保護の条約が討議され、1878年（明治11年）のパリ万博を経て、パリ条約（1883年（明治16年））に至ったことについては、中山信弘先生の論考で勉強させていただきました⁴。当時、私は特許という言葉さえ知らなかったと思いますが、科学が大好きな私は、関西で行列を作ると言うことが皆無だった時代に、わくわくしながら行列に数時間並んでアメリカ館の月の石を見たときに、「なんや、これは銭湯の軽石やんか」と思ってとてもがっかりした記憶が鮮明です。当時から、「恐らくそこらへんに転がっている石と外観は変わらない」と看破されていた⁵中山先生とは大違いで、筋違いですが20世紀少年として大人はひどいと思いました。ただ、総じて会場には科学技術があふれており、私はテレビ電話で通話したりして未来を感じていたのです。

もう1つは国際性です。万博会場には、様々な民族衣装を着た、肌や目の色、話す言葉の違う人々がたくさんおられました。外国人を見ることもそう多くなく、特にアフリカ系の人は見たこ

1 日弁連知的財産センター 2020（令和2）年度委員長、現国際PT座長

2 知財ぷりずむ2025年5月号1頁（伊原友己）

3 『本格科学冒険漫画 20世紀少年』は浦沢直樹による日本の漫画作品。大阪万博の時に小学生だった少年が大人になったときの物語。堤幸彦監督、唐沢寿明主演で2008年から2009年にかけて3部作で映画化された。

4 知財ぷりずむ2024年10月号2頁（中山信弘）

5 脚注4 1頁

とがなかったので、それは驚きでした。外国へ行ったことのある人も少なかったと思います。町内に大学教授がいてその息子にアメリカかどこかのお土産を見せてもらって興奮した時代でした。万博会場に行って、世界中から色々な国の人がきていて、世界は広いな、と実感し、一度は行ってみたいと思いました。

2 周到な準備—ロゴマーク選定など

万博というのは一大イベントなので準備も大変です。実は私も準備の末端の末端ですが、「2025年日本国際博覧会ロゴマーク策定にかかる知的財産戦略検討ワーキンググループ」というところの委員を特許庁の方らと共にさせていただきました。このWGは2019年10月にはロゴマーク策定のための公募の準備をしていたわけです。当時は、オリンピックのロゴマークで盗作疑惑がでて混乱した直後のことで、事務局は随分気をもんでおられたことと思います。今や絶大な人気を誇る万博のロゴマーク「ミャクミャク」も誕生に至るまでには長い長いプロセスがあり、2019年11月から12月で公募、2020年8月25日に最優秀作品として決定され、同年9月18日に記者会見がされています。この模様は、今でも、それまでの選考のヒストリー動画も合わせて、万博の公式サイト⁶の「新着情報」→「活動報告」に「大阪・関西万博 公式ロゴマーク決定!」として紹介されています⁷。ここでは万博開催に向けた各活動が最新のものから掲載されており、脱稿時点で28頁／29頁に載っています。ロゴマーク選考委員会の座長は安藤忠雄氏で、委員の1人として林いづみ現弁護士知財ネット理事長が関与されていました⁸。選ばれたときには、「目が3つ以上あるものに人間は嫌悪感を抱くなあ。なんでこれなんや」、などと仲間内で揶揄してありましたところ、実際はすごい人気となり時代に取り残された感を強く感じつつ、選考委員会の卓見に感心しているところです。ロゴマーク策定は活動の一部ですが、公式サイトの29頁ある「活動報告」を見ると、各種委員会が膨大な準備を重ねてこられたことがよくわかります。

3 映像・バーチャル、そしてライブ

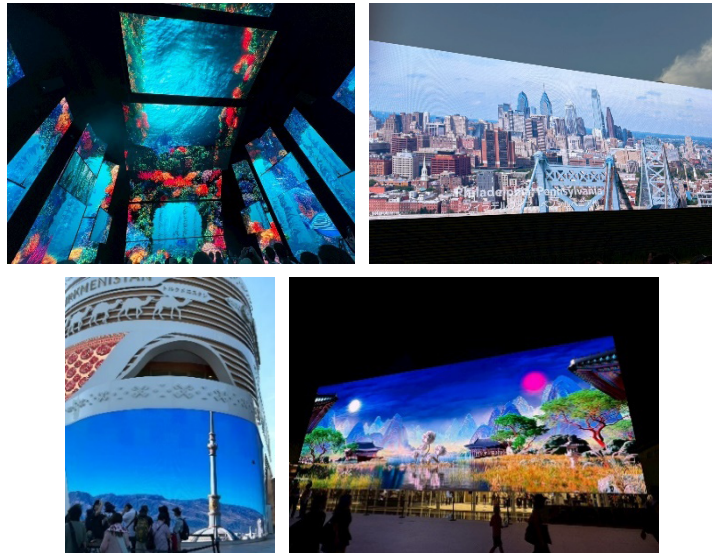
(1) 映像・バーチャル

今回の万博の展示の中心は映像になります。オーストラリアパビリオンでは壁一面と天井に多数のパネルを設けて、美しい映像でクジラが縦横無尽に動きまわります。アメリカパビリオンでは、会場での迫力あるロケット映像や屋外の巨大パネルの映像を見ることができます。トルクメニスタンパビリオンの屋外映像は円柱の美しい画質であり、韓国パビリオンの屋外映像の巨大さ、美しさは、群を抜いているように思いました。

6 <https://www.expo2025.or.jp/>

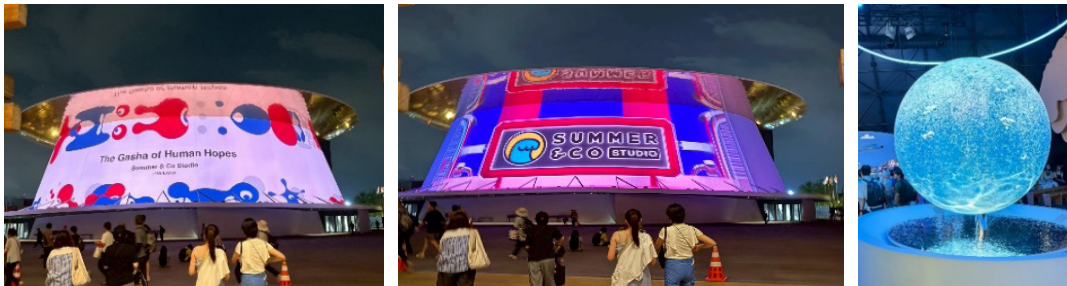
7 <https://www.expo2025.or.jp/report/report-20200918/>

8 動画の1:36／2:30、1:49／2:30あたりにお2人が並んで映っています。なおWGも動画の1:53／2:30あたりに映っています。



また、プロジェクションマッピングの技術も素晴らしいと思いました。毎晩行われているシャインハットでの映像ショーは、日本41、海外68の作品が選ばれているそうで、映像はとてもきれいです。

未来の都市の神戸製鋼所の展示にあった球体への映像投影もどこからどう映写しているのかわからないのですが斬新でした。



バーチャルリアリティということでは若干子ども向けではありますがガスパビリオンのものは面白かったです。過剰な欲望（欲しがること）が地球を壊してしまう、ということで、来場者がホールに入り、ゴーグルをつけると周りみんながおばけに変身し、空から降ってくるお菓子、食べ物、おもちゃなどを、おばけになった自分が手で捕まえて取る、というものです。そうすると、欲張ったらだめだとオニが怒って地球を滅ぼそうとしますが皆が声を合わせてオニ退治します。子どもも大人も大喜びでした（表現が稚拙で何がどうなっているのかわからないかもしれませんが悪しからず）。

極めつけはNTT PavilionのバーチャルなPerfumeのミニコンサートです。吹田市にある1970年万博の万博記念公園で実際に行われたPerfumeのミニコンサートを、現万博会場で、バーチャルな3D映像と、Perfumeが振付でステージの床に足をぶつける振動をそのまま感じられるというもので、コンサートに行っても見えない細かな動きがとてもよく見えて、臨場感があり、そのまま手を伸ばせば捕まえられるのではないかと思うほどのリアリティでした。ここでは入口で来場者の全身写真を撮り、会場に入ると映像になった自分がキレキレに踊っている動画が見れるなどという技術も披露されていました。

(2) ライブ

映像・バーチャルリアリティと対局にあるのがライブですが、私には、映像・バーチャルリアリティが解像度でリアルをある意味で超えてきたからこそ、人間の五感が目いっぱい受容する空気感を同時・同一空間にいる仲間と共有するライブは、ますます価値を増しているように思います。万博ではライブもひとときわ盛んです。

開催地の大阪府・大阪市では春夏秋にEXPO2025大阪ウィークとしていろいろなイベントを行っています⁹。中でも「最多人数で踊る盆踊り」のギネス世界記録¹⁰への挑戦が話題で、7月26日には約4000人が盆踊りでギネス世界記録を達成しました¹¹。友人の参加者には熱い達成感があったようで、人生で一番感動したと言っていました。

私が来場した7月28日はナニワの日として、大屋根リングの上で約8000人が河内家菊水丸師匠の音頭で河内音頭を踊っていました。そして、同時に国際性豊かにクラシックのフルートとピアノのミニステージでのライブやアンゴラバビリオンの野外ステージで民族ダンスのライブが行われていたのです。夜には噴水のスペクタクルショー「アオと夜の虹のパレード」や花火などライブ感あふれるイベントもたくさんあります。



4 ドローン、ロボット、鉄腕アトム・ガンダム

今回の万博の目玉の1つはドローンでしょうか。残念なことに初の商用化を目指した空飛ぶクルマは安全性の確認が間に合わずデモ飛行だけのお披露目となりましたが、空飛ぶクルマステーションでの実機の展示は大人気でした。また、夜に行われるドローンのショーは空一面がスクリーンになったようで、音楽に合わせて、正確な位置でドローンが多彩な光を放って空中に作画し、一瞬にカラーや構図が変わる素晴らしいもので、今まで見たことがなく圧倒されます。

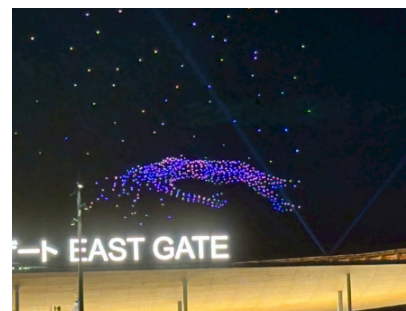
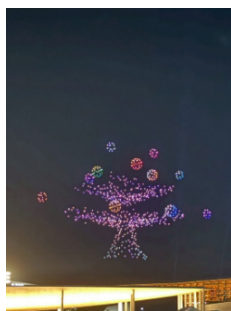
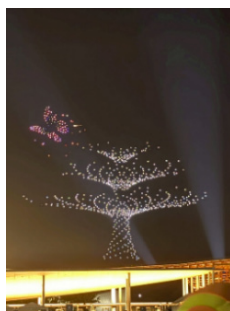
9 <https://www.expo-osaka2025.com/osakaweek/>

10 2016年8月6日東京都八王子市の八王子まつり、2017年7月22日宮崎県延岡市の「新ばんば踊り」、2017年9月9日大阪府八尾市の河内音頭が記録を持っていました。

11 ギネス記録としては、万博では最多国籍数も達成しています。



(空飛ぶクルマ)



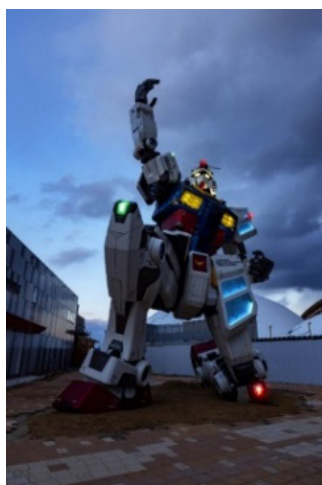
(ドローンのショー)

ロボット&モビリティステーションでは、人間に役立つロボットやモビリティの展示があり、記録的な猛暑の中、これからさらに多くの作業や移動をマシーンに助けてもらう明日がわかります。

西ゲートから万博会場に入ってくると、右にはパソナグループパビリオン PASONA NATUREVERSEの鉄腕アトム（漫画は1952年 - 1968年、TVアニメは、1963年 - 1966年、1980年 - 1981年、2003年 - 2004年）、左にはGUNDAM NEXT FUTURE PAVILIONのガンダム（TVアニメは1979年スタート。その後各種のシリーズにより継続）が見えてきます。全世代の日本人が少なくとも片方は知っているというロボット。見ると興奮します。我々日本人はロボット、科学に対して他国の人に比べて好感度が高いと言われていますが、こういうキャラクターによって長い期間で熟成されたものだと思います。



(パソナグループパビリオン公式サイトより)



(万博公式サイトGUNDAM NEXT FUTURE PAVILIONのページより)

5 国際性 民族 普遍性と多様性

来場者をみると国際性に関して先の万博で感じたような感動はなく、万博会場よりはむしろ京都や難波を観光している方がたくさんの外国人を見かけます。これは55年を経て日本という国がいかに国際化を果たしたかという証なのかなと思います。しかし、万国博覧会ですから、万とはいきませんが、多数の国が参加しています。独自にパビリオンを出していない小国はAからDまでのコモンズという会場に集まって各国がブースを作って展示しています。恥ずかしながらまだ知らない、聞いたこともない国がたくさんあり、その国旗を見るだけで大興奮です。会場には民族衣装を展示する国も多く、デザインや色彩でこんなにもバリエーションがあるのかと、見ていだけでもワクワクしてきます。一生に一度でいいから行ってみたいと思いながら各ブースを回って写真を撮っていたら、こんなにも多くの民族衣装が展示されていました。



ドミニカ



コートジボワール



パラオ



キルギス



ジブチ



セントビンセント及び
グレナディーン諸島



コソボ



キルギス



東ティモール



サモア



トンガ



トリニダード・トバゴ



セントルシア



バルバドス



ブルキナファソ



パキスタン



セントクリストファー・
ネービス



アンティグア・バーブーダ



タジキスタン



モンゴル



パキスタン



セントクリストファー・
ネービス



モルドバ



パレスチナ



ブータン



ウガンダ



ブルキナファソ



ナイジェリア



赤道ギニア

6 おわりに

日経トレンディ 2025年8月号に万博のパビリオンのランキングの記事がでました。国内・海外パビリオンの各ベスト5が載っていますが、結局、私はその中で、国内では5位のNTT Pavilion、海外では4位のアメリカパビリオン、5位のサウジアラビアパビリオンしか行っていないことになります。また、今回の万博の大きな柱であるライフサイエンスに関するパビリオンには一切行けていません。万博の魅力のうちごくごくわずかに触れただけなのでした。しかし、2日間の、全体から見るとわずかな一部でも大いに楽しめました！人を助け、楽しませる科学技術に思いをはせて、世界の隅々に思いをはせて、やはり万博は心躍ります。

今回の大阪万博が目指すものとして、「持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献」があります。科学技術が環境汚染など人類の存亡にかかわる大きな問題を引き起こしてしまい、多くの課題が目の前にあります。ガスパビリオンなど多くのパビリオンでテーマになっているSDGs。私たちの欲望によって地球が減びそうになっているのが子どもにでもよくわかります。

いよいよ会場を出ると、素晴らしいドローンのショーをやっていました。ショーを見ながら、科学技術による課題はまた科学技術によって克服するしかない、との感想をもって家路についたのでした。

（脱稿日：2025年8月20日）